

地域医療連携室だより



院長就任のご挨拶



武田病院 院長
武田 純

今日の医療においては、様々な領域同士の「連携」が求められます。診療科や職域をまたぐ医療連携、グループ内連携。さらには地域包括ケア時代に求められる、地域の医師会の先生との病診連携が重要となってまいります。在宅で療養されている方の治療等、地域医療の主役はホームドクターです。専門領域や救急については当院が紹介を受けて治療し、患者さんにはまた地域に戻って療養して頂くなど、地域医療支援病院として連携推進の役割を担っていく考えです。

これからもスタッフの確保と提供する医療の質の底上げを図り、「この病院ならいつも質の高い医療が受けられる」との地域の皆さんの安心ある暮らしに貢献できるよう努力してまいります。

理念

- ・思いやりの心
- ・地域社会の信頼
- ・職員相互の信頼

基本方針

- ・ブリッジ・ザ・ギャップス
- ・患者さんの権利尊重
- ・信頼の医療に向けて
- ・地球にやさしい環境づくり

環境方針

- ・省資源・省エネルギーの推進
- ・廃棄物の3R
(減らす、再利用、再資源化)の推進
- ・安全性・快適性の推進
- ・環境広報活動の推進

患者サポートセンター

患者サポートセンター長の就任にあたって

この度、患者サポートセンターの新たな開設に伴ってセンター長に就任しました。患者サポートセンターは、当院に由来からあった患者入退院支援、地域連携、病棟管理支援などを統合し、いわゆるワンストップ型の新たな患者支援・地域医療支援のセンターとして設立しました。地域包括ケアを支える病院のワンストップ型の患者サービスセンターとして、患者さん・開業医の先生・介護に携わる皆さんの要望などをお聞きして、迅速、丁寧に対応していきたいと考えております。

従前にまして、今後も一層のご支援、ご協力をお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。

患者サポートセンター
センター長・院長代理 八木 秀雄

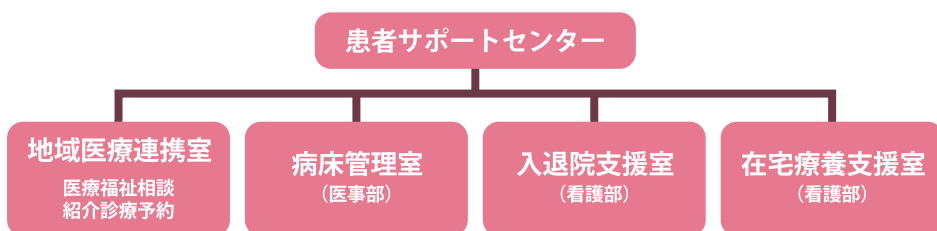
患者サポートセンター開設について

康生会武田病院は、平成30年4月より、本館1階の正面玄関右横に患者サポートセンターを設立しました。

患者サポートセンターは、地域医療支援病院・高度急性期病院である病院機能を維持すると共に、対象となる患者さんが地域で安心して療養生活ができる事を支援し、地域包括ケアシステムを推進する事を目的としています。

入院前から退院後を見据えた患者支援を行うために、地域連携室の社会福祉士が中心となり、福祉サービス・医療費・生活等の問題について相談に応じます。専任の看護師が入院が決まった時から、退院後の生活を見据えた説明や入院手続きをスムーズに行えるよう支援し、入院診療計画・退院計画に基づく医療を提供します。また、疾患を持ちながらも住み慣れた場所で少しでも長く生活ができるよう在宅療養支援看護師が支援します。そして、急な入院依頼に対応できるよう病床管理機能を充実させます。

これら4つの機能を集約し、今後さらに地域との連携強化に努めてまいります。



患者サポートセンターと4つの機能



患者サポートセンター
副センター長 大島 恭子

用語解説 「地域包括ケアシステム」って？

地域包括ケアシステムは、病気や要介護状態になっても、住み慣れた地域で“自分らしい”暮らしをまっとうできるよう、医療・介護・福祉等のサービスが一体的に提供される体制をさします。

康生会武田病院では、地域に求められる地域包括ケアシステムの役割をこれまで以上に果たせるよう、患者サポートセンターを開設しました。このセンターは、怪我や病気で入院しても、回復後、元の暮らしに戻りやすくなるよう、また入院が必要になった時にもスムーズに対応できるよう、関係部署やお住まいの地域の事業所さんと連携をとる“患者さん中心”の調整役となります。

当院に新たに神経内視鏡が導入されました！



脳卒中センター部長
定政 信猛



脳卒中センター特任部長
山名 則和

康生会武田病院脳卒中センターでは2017年10月以降、山名則和特任部長（日本神経内視鏡学会技術認定医）を中心に神経内視鏡を積極的に活用した治療に努めております。

2018年1月には最新型の神経内視鏡を導入し、さらに患者さんの負担の少ない低侵襲な治療につながっています。今回導入した神経内視鏡は、脳内出血の治療において視認性が良く、より安全な治療につながるものです。

このほか、下垂体手術や水頭症手術、脳動脈瘤クリッピング術の際のアシストや脊髄疾患など、多くの場面で活躍してくれるものと思いますので、地域の先生方からのご紹介もお待ちしております。

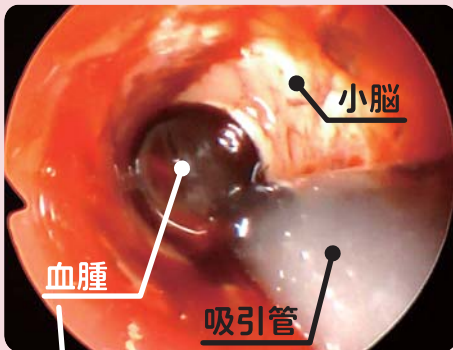


図1

左の症例は70代の女性、突然の頭痛、ふらつき、嘔吐で発症されました。頭部CTにて小脳半球に大きさ3.5cm程度の出血と脳室の拡大（急性水頭症）を認めました。

これまで脳出血の手術は、皮膚を大きく切開し、頭蓋骨を外して血液を除去する方法が一般的でした。この度導入した神経内視鏡を用いると、皮膚切開は3cm程度で、約1cmの鍵穴から血腫を吸引除去できます（図1）。

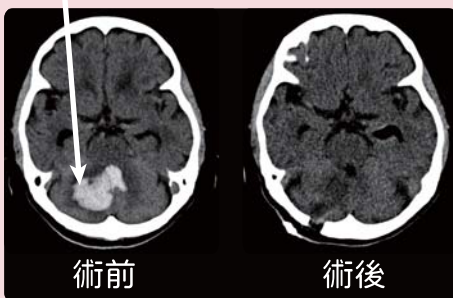


図2

術後の頭部CTでは、出血もきれいに除去されています（図2）。

合併症もなく経過良好です。



手術の様子

着任のご挨拶

ご挨拶



武田病院 副院長
朴 昌禧

4月より副院長を拝命しました。「桃李不言下自成蹊」を座右の銘に、自分がきちんと診療を行えば、自ずとチームメンバーの理解を得られ診療の質は上がるものと臨床業務を行ってきました。今回の拝命を機に、診療科および職種を超えた任を与えられたと推し量り、種々の価値観を持つ人を取りまとめチーム医療の質を高めるにはと考えていましたが、キーワードは「認知と感謝」だという思いに至りました。実はそんなに難しいことではありません。メンバーの名前を覚え、現場でなされたアドバイスや診療への疑問を謙虚に受け止め、その提言に感謝の言葉を添えることこそが、人を中心としたチームの根幹であり、AIにすら負けない人知ではないかと考えています。「認知と感謝」の輪を院内に広げ、それがさらに救急応需のレベルアップに繋がればと考えています。

新任のご挨拶



武田病院 眼科部長
牧山 由希子

人間は大変多くの情報を「眼」から得ています。眼科の診療を通じ、患者さんの生活の質の向上と維持に貢献してまいりたいと考えています。眼科疾患全般の診療を担当しますが、とくに白内障と網膜硝子体の治療を専門としています。

私が基本としているのは、武田病院グループの経営理念に通じる「思いやり」の大切さです。的確な診断・治療の提案を行うのはもちろんのこと、患者さんの視点に立って病状と生活環境を勘案し、患者さんのご希望も重視し治療のご提案をさせていただきます。診断、説明、治療において、ご納得し受けていただけるよう、また、その治療の結果においても満足して頂けるよう、努力してまいります。

地域医療連携だより

地域医療支援病院 医療法人財団 康生会 武田病院 発行

京都市下京区塩小路通西洞東入東塩小路町 841-5 TEL : 075-361-1351 (代表)

受付時間

月曜日～金曜日 8:30～19:00 土曜日 8:30～17:00

※日曜日・祝日・祭日・年末年始はお休みさせていただきます。

医療機関専用

TEL (075) 361-1352 (直通)

FAX (075) 361-1337 (直通)

※地域医療連携室受付時間外につきましては医事部（医療事務）にて対応させていただきます。

TEL (075) 361-1351 (代表) FAX (075) -361-1268 (医事部専用)